

ベストセラー温故知新

ナビゲーター 岡崎武志 おかざき たけし (フリーライター)

すでに相当話題になっている本だ。著者は元NHKのワシントン支局長。その名を知らなくても、顔を見れば「ああ」とわかるはず。あの九・一一同時多発テロの際、連日支局から中継を行った人だからである。大づくりの顔、おっとりとした口調が印象的だった。緊迫したムードが、あの風貌、口調にかかる春の花の便りを聞くような思いがした。

で、その人が独立後、初の小説として発表したのが、この話題作だ。正直言って、私のようなすれっからしの本読みとしては、お手並み拝見と意地悪い気持ちで読み始めた。ところが、ものの数ページ読み始めたところ、



今月の知新
「ウルトラ・ダラー」
手嶋龍一 新潮社

「おやおや、これは……」と背筋を伸ばした。つまり、おもしろい。そしてうまい。まさか、これほどのものとはというのが正直な感想だ。

小説の始まりは、京都。浮世絵商たちによるオークションの場面だ。写楽畢生の名作が競り台に上り、座はどよめく。そんななか、畳敷きの会場で正座する栗色の毛のイギリス人がいる。ステイブ・ブロードレー、彼こそ

4月第2週のベストセラー

小説

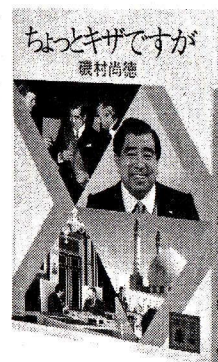
- 1 東京タワー オカンとボクと、時々、オトン
著◎リリー・フランキー 扶桑社 1575円
- 2 陰日向に咲く
著◎劇団ひとり 幻冬舎 1470円
- 3 町長選挙
著◎奥田英朗 文藝春秋 1300円
- 4 盾(シールド)
著◎村上 龍 絵◎はまのゆか 幻冬舎 1575円
- 5 ウルトラ・ダラー
著◎手嶋龍一 新潮社 1575円
- 6 イルカ
著◎よしもとばなな 文藝春秋 1330円
- 7 終末のフール
著◎伊坂幸太郎 集英社 1470円
- 8 ナラタージュ
著◎島本理生 角川書店 1470円
- 9 容疑者Xの献身
著◎東野圭吾 文藝春秋 1680円
- 10 銀魂
著◎空知英秋／大崎知仁 集英社 750円

KINOKUNIYA Publine調べ

の海外生活をもとに、インタナショナルな視点から欧米との比較による日本、日本人を考察したエッセイ集。
梅雨が高温の夏に訪れるわが国とちがって、冬場が雨期に当たするため、

ルプ、八九年にはスイスの機械メーカーから精巧な印刷機械などが消え、すべてが「ウルトラ・ダラー」に結びついていく。震源は北朝鮮。
ちょうど北朝鮮の偽ドル事件についてのニュースが飛び交う頃に本書が発売され、その高い情報性と予言性も高い評価につながった。日・米・欧・東アジアと地球規模に立った視野の小説をリアルに描けたのは、著者の豊富な海外体験があるからだ。

そこで思い出すのが、七六年に大ベストセラーとなった『ちよつとキザですが』の著者・磯村尚徳。五三年に放送記者としてNHKに入社(外信部)し、経歴の半分以上を外国の特派員として過ごす。ワシントン支局長として手嶋の先輩。七四年から「ニュースセンター9時」の初代キャスターを務め、柔和な顔、親しみやすい口調でニュースを届け、一躍人気が出た人である。『ちよつとキザですが』は、多年



今月の温故
『ちよつとキザですが』
磯村尚徳 講談社文庫

同じ寒さでも、肌にはピリピリくる空つ風ではありません。／夏は夏で、乾燥しているだけに、日かげは涼しく、気温が高くてはるかに楽で、イギリス紳士の身だしなみのよさも、そこからくるわけですね、と、くだけた語りかけの文体が特徴。お堅いNHK、というイメージを崩した文体の勝利といってもいい。八二年にベストセラーとなった、同じNHKの鈴木健二『氣くばりのすすめ』は、その衣鉢を継いだのだ。手嶋の場合はむしろ逆で、ブラウン管に映る世離れた茫洋たる品格を、小説ではスピーディな展開、女性のファッションにいたるまでの現代風俗への関心など、あざやかにイメージを裏切って成功した。

ただ、一点、磯村、鈴木、手嶋と並べて共通することがある。それはズラをかぶせると時代劇顔、ということだ。誰が殿様で、誰が素浪人で、誰が悪代官かは考えてください。

本書の主人公であり、BBC(英国放送協会)の特派員。しかし、じつは彼は特命を帯びた英国の諜報部員で、携帯電話に一報が入る。
「ダブリンに新種の偽百ドル札『ウルトラ・ダラー』あらわる」
鮮やかな幕開けであり、浮世絵オークションとイギリス人、諜報部員と偽百ドル札といった道具立ての提出の仕方にも堂に入っている。これで本当に小説を書くのは初めてなのか、とたちまち舌を巻いた。そして物語は、一九六八年に東京・荒川で若き印刷工、八八年に英国の製紙工場からドル紙幣用パ